

会 議 名	第4回 まちづくりの勉強会
日 時	平成30年11月28日 午後7時30分～午後9時30分
内 容	<p>[テーマ] 高山の未来のための^{まち}都市づくり ～30年後(2050年)の高山、何を目指して生きるんや～</p> <p>[参加者] 市 民 18名 (10代：0名 20代：1名 30代：2名 40代：8名 50代：4名 60代：3名) 事務局 4名 <u>計22名</u></p> <p>[勉強会の流れ] ① はじめに (10分) 進行：事務局 ② コメンテーターによる発言の後、グループ討議 (80分) ③ グループ別発表 (25分)</p> <p>[グループ別発表での主な意見] 【グループA】継承する^{まち}都市づくり (30年後のイメージ) ・国籍に関係なくいろんな人が住んでいる。暮らしやすいまち。 ・伝統(心)は残しつつ、引き継ぐ人はインターナショナルで。屋台を曳く人は外国人かも。 ・高山の人は温かい。人情を残し、おもてなしの心を持つまち。 ・歩きやすいまち、緑や公園がある豊かな環境のあるまち、子どもたちに生きる力を育ませるまち。 ・高山の心を持つ子どもたちを育てていく。その子どもたちが帰りたくなるようなまち。 ・前回の「30年後は原点回帰しているのでは」という言葉が印象的。 (そのために必要なこと) ・普段何気なく接しているものにこそ価値がある。 ・高山は30年前から海外の方たちを迎えており、自分たちのまちの良さを改めて見直すということができている。 ・異なる価値観に接することで、自らの価値を気づかせるような子どもたちを育てていきたい。 ・子どもたちに高山のDNAをしっかりと伝えていきたい。 ・不変なものの良さを、ブレずにしっかりと継承し、残していく。 ・今日明日その1年後と、積み重ねが30年後に活着ているのではないか。 ・継続すること。景観10年、風景100年、風土は1000年かかる。まだまだ長いスパンで考えていかねば。</p> <p>【グループB】情報化と^{まち}都市づくり (30年後のイメージ) ・「VRの活用」 不登校の子どもが活用して社会に復帰できるように。 ・「障がい・福祉・コミュニケーション」 障がいの方々と健常者の方々との垣根が無くコミュニケーションがとれるように。 外国語の習得は不要。 ・「情報発信」 特に災害。一つの情報で皆同時に情報が行くことが重要。 ・「お金」 電子決済だけで済んでいくのでは。 ・「産業」 ビックデータの活用 (そのために必要なこと) ・様々な人がコミュニケーションをとる学習が必要になってくるのでは。 ・異なる世代の交流が少なくなっていくため、語り部の育成も重要ではないか。</p>

- ・データはしっかり活用していくべき。地域のデータは地域の人たちが活用していくべき。

【グループC】なくなるかもしれない地域（土地）への^{まち}都市づくり

(30年後のイメージ)

- ・人口減少が進んでいて、平成57年には昭和25年頃と同じ人口水準になる。
- ・所有者不明土地が増える。
- ・土地が管理されずに荒れてしまう。道路、水道等のインフラについても維持管理できなくなる。
- ・人がいなくなれば、その地域で営まれている文化もなくなってしまう。

(そのために必要なこと)

- ・管理されていない土地をどうしていくのか選別が必要になってくる。
- ・市が土地を買い取ったり、ある程度集約したり、あるいは、NPO、第三セクターなどで、土地をまとめて持つようなことも考えるべきではないか。
- ・土地を自然に返していくという選択肢もあるのではないか。
- ・土地を使うということについては、利益が無いと土地を使うことにならない。どのような産業に使っていくのかという視点が必要。
- ・高山は観光のおかげで恵まれた状態にあるが、観光の自給率が低いのではないか。農産物、木工にしても、他所から材料を仕入れて作って、それを売っている。なんとか地元にある資源を使ってやっていくことができないか。高山は地形が開けていないため、コストの問題があるので、その部分を解決する必要がある。
- ・高根や国府など価値のある資源がたくさんあるので、支所地域も含めて、いかにお客さんを繋いでいくかということが大事な視点ではないか。

【グループD】新たな^{まち}都市づくり

(30年後のイメージ)

- ・「若者」「誇れる」「住みたいと思える所」→「若者があこがれる農山村」
- ・地域の木を使った、昔ながらの古い家が魅力的。田舎を求めて、周辺の地方都市に人が集まってくるのでは。
- ・都市部では見られない自然環境、農山村で作られた野菜、水、空気が魅力。
- ・高山の人は優しい人柄で、みんなで地域を見守っていけるようなまち。子育てしやすい、住みやすいまち。
- ・地域の人と自然と動物と共存できるまち。

(そのために必要なこと)

- ・丹生川をフィールドに考える。北方、法力、大谷など。国の重要文化財（荒川家）、里山、農山村をテーマとする。
- ・空き家、古い家は重要な資源ではある。地域の土地として、これから需要が高まってくる可能性が無いとは言いきれない。

[アンケートより抜粋]

- ・様々な立場の方から多くの意見が聞けて、大変有意義でした。
- ・普段あまり考えていない角度からの議論のおかげで視野が広がった。
- ・初めての参加のため、どこまで議論に参加できるか不安でしたが、盛り上がりました。 等

[まとめ・次回について]

- ・第5回は、平成30年12月26日（水）19:30～21:30 市役所にて。
- ・これまでの議論をふまえ、テーマを絞り、グループワーキング形式とする。